

シームレスながん医療を促進するコーディネート能力向上 プログラムの開発と有効性の検討

研究代表者 飯岡 由紀子 所属・職位 大学院研究科・教授

〔要約〕

目的：本研究はシームレスながん医療を促進するコーディネート能力向上プログラムを開発し、その有効性を検討することを目的とする。

方法：埼玉県内の病院で働く専門職を対象に、多職種連携に関する課題やニーズを把握するため調査研究を行い、その結果を踏まえプログラム開発を行う。プログラムの有効性の検討は、調査研究を対象とした病院から対象者をリクルートし、1群前後比較テストデザインにてプログラム介入を行い、効果を検討する。

進捗状況：がん医療におけるカンファレンスや連携での困りごと、連携を良くするための能力について研究者同士でアイテム抽出ワークを行った。文献検討をふまえ「コーディネート能力尺度（仮）」、「がん医療における連携の困難感尺度（仮）」を作成中。また、研究協力施設を検討中。

〔研究組織〕

(1) 学内研究分担者

大場良子(看護学科・准教授)、佃志津子(社会福祉子ども学科・准教授)、廣田千穂(保健医療福祉学部・特任助教)

(2) 学外研究協力者

黒澤永(埼玉県立循環器・呼吸器センター・緩和医療医)、儀賀理暁(埼玉医科大学総合医療センター・緩和医療医)、真鍋育子(さいたま赤十字病院・乳がん認定看護師)、森住美幸(埼玉県立がんセンター・がん看護専門看護師)、小菅由美(埼玉県立がんセンター・緩和ケア認定看護師)、竹内潤子(埼玉県済生会川口総合病院・社会福祉士)、小倉泰憲(山形大学理学部・教授)、関谷大輝(東京成徳大学応用心理学科・准教授)

1. 研究の背景

首都圏の急激な高齢化やがん患者の増加により、埼玉県内のがん患者も増加すると推定されている。第3期がん対策推進基本計画の分野別施策には「がんとの共生」が提唱されており¹⁾、治療と生活の両立が重視され、生活圏と治療施設は隣接することが望ましい。また、診断期から治療期、終末期の医療がシームレス（切れ目のない）に継続されることが必要である。がん医療は、延命だけでなくQOLの向上の重要性が高まり、医師・看護師・薬剤師など多様な職種が協働することが重要である。つまり、シームレスな医療の実現には、多職種連携の強化が必要と考える。

この多職種連携の強化では、それぞれの専門職者が連携の認識を高め、協働するためのスキルを身につけることが重要である。本研究では、これらの能力をコーディネート能力と捉え、その能力向上を目指したプログラム開発に取り組んでいる。専門職者のコーディネーションは、患者・家族を中心とした目標を共有し、目標に向けて医療者間の情報共有を行い、専門性を発揮し、信頼関係を基にした協働活

動を考えている。

2. 目的

本研究はシームレスながん医療を促進するコーディネート能力向上プログラムを開発し、その有効性を検討することを目的とする。医療職者のコーディネート能力が向上すると、がん医療の連携における困難感が緩和され、チーム医療が促進すると予測している。

3. 方法

埼玉県内の病院で働く専門職を対象に、多職種連携に関する課題やニーズを把握するため調査研究を行う。その結果を踏まえ、プログラム開発を行う。プログラムの有効性の検討は、調査研究を対象とした病院から対象者をリクルートし、1群前後比較テストデザインにてプログラム介入を行い、効果を検討する。

(1) シームレスながん医療に向けた連携における課題やニーズに関する調査（2018～2019年度）

【対象】

研究協力が得られた埼玉県内3施設程度の医療機関の医師、看護師、MSW、薬剤師、理学療法士、作業療法士のがん医療にかかわる専門職。

【研究デザイン】

質問紙を用いた横断的観察研究

【調査内容】

- ①対象者の特性：年齢、経験年数、職種など
- ②医療者のコーディネート能力：多職種連携に関する文献検討や研究者らによるアイテム抽出ワークの検討により項目を作成した「コーディネート能力尺度（仮）」を活用予定。
- ③がん医療における連携の困難感：文献検討や研究者らによるアイテム抽出ワークの検討により項目を作成した「がん医療における連携の困難感尺度（仮）」を活用予定。
- ④多職種連携の状況：「チームアプローチ評価尺度（TAAS）」を活用する。TAASは個人の認識からチームアプローチを評価する尺度である²⁾。

【調査方法】

医療機関の院長の許可を得て、研究依頼書・質問紙を送付し、各専門職の代表を通し、対象者へ質問紙を配布する。

【倫理的配慮】

埼玉県立大学および研究対象となる医療機関の倫理審査委員会の承認を得て研究を実施する。

(2) 研修プログラムの開発(2019年度～2020年度)

①e-learningの開発

調査研究における課題やニーズ調査の結果をもとに必要となる概念を含み、コーディネーション、ファシリテーションをテーマとした講義をe-learningとして配信できるよう開発する。学習背景が異なる人たちへの講義であるので、理解しやすさに留意する。講義内容は、開発段階で多様な職種に閲覧してもらい、内容を洗練する。

②研修プログラムの開発

プログラムの目的、内容、スケジュールを検討する。演習やワークを多く取り入れ、対象者の交流を豊富にした内容とする。研修は複数回行い、参加者同士の関係性構築を促進する。例えば、場づくりのためのスキル、コミュニケーションスキル、活発かつ有益な討議を促進するスキル、問題解決に必要なスキルなどを含める。

(3) 研修プログラムの実施と有効性の検討

【対象】

質問紙調査を行った病院に引き続きご協力をいただく。プログラムのチラシを配布し、参加者を公募する。現時点では医師、薬剤師、看護師、MSWなどの医療職者60名程度を予定している。

【研究デザイン】

1群前後比較テストデザイン

【介入方法】

対照群として観察期間を経た後、介入群として開発したプログラムを提供する。

【倫理的配慮】

埼玉県立大学および研究対象となる医療機関の倫理審査委員会の承認を得て研究を実施する。

【データ収集】

- ①対象者の特性：年齢、経験年数、職種など
- ②がん医療における連携の困難感尺度（仮）
- ③コーディネート能力尺度（仮）
- ④チームアプローチ評価尺度（TAAS）
- ⑤プログラム評価：プログラムのわかりやすさ、役立ち度、満足度などを測定する。データはプログラム前と直後と3ヵ月後で収集する。

【分析】

データは記述統計量を算出後、分散分析にて検討する。

【プログラムの有効性の検討】

上記のデータを分析し、有効性を明確にし、論文化する。また、プログラムの一般化について検討する。

4. 進捗状況

1) ファシリテーション研修受講

一般向け、看護師向けのファシリテーション研修を受講し、今後プログラム開発に向けて適応の可能性の検討や調査項目への参考とした。

2) 連携における課題やニーズアセスメントに関する調査に向けての検討

がん医療におけるカンファレンスや連携での困りごと、連携を良くするための能力について研究者同士でアイテム抽出ワークを行った。文献検討をふまえ「コーディネート能力尺度（仮）」、「がん医療における連携の困難感尺度（仮）」を作成中。また、研究協力施設を検討している。

5. 到達度

コーディネート能力の定義や共通認識に関する討議、調査研究で使用する既存尺度の検討、アイテム抽出ワークなどに時間を要したため、当初の研究計画よりやや遅れをとっている。

6. 引用文献

1) 厚生労働省「がん対策推進基本計画」の変更について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000181704.html> (参照日2019. 1. 29)

2) 飯岡由紀子, 亀井智子, 宇都宮明美. チームアプローチ評価尺度（TAAS）の開発—尺度開発初期段階における信頼性と妥当性の検討—. 聖路加看護学会誌(2016); 19(2) 21-28

7. 研究発表

(1) 公表した又は公表予定の論文：未定

(2) 公表した又は公表予定の学会発表：未定

8. 本研究と関係する獲得した外部資金：なし